

3/26 ヨハネの福音書 15章 1-17節

「まことのぶどうの木イエス・キリスト」

小池 宏明 師

今回も、主イエス様が十字架を前にして、弟子たちに語った最後の説教での自己証言を取り上げる。

*イエス様にとどまるということ

15章5節「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」

イエス・キリストが救い主として来臨され、「わたしこそまことのぶどうの木である」(1節)と宣言された。ここで、「とどまる」とは「泊まる」と訳せる言葉が使われている。イエス様と弟子たちが一緒に暮らすことを意味する。一緒に暮らすことはいろいろな物を共有し、相手に自分を委ねているということでもある。このことは、本当の意味でキリストの「弟子」や「しもべ」を目指すことである。私たちが、日常の賑わいから離れて、一人になり、誰も頼ることが出来ない経験をするとは、主イエス様へののみ信頼して生きるために必要な時かもしれない。

*御霊の実を結ぶ

主イエス様にとどまり、イエス様としっかりと結び付くなら、多くの実を結ぶ結果になる。今では、世界中にキリストの群れが立て上げられている。その前提は、御霊の実を結ぶことであろう。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」(ガラテヤ5:22-23)このような実りが、私たちの内側に成長して成熟していくならば、人々が集まって来るようになる。

*キリストの友として愛される私たち

9節「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。」まことのぶどうの木であるキリストにとどまるということは、キリストの愛にとどまることである。それは、喜びにつながり、喜びで満ち溢れるようになる。さらに、互いに愛し合うことはキリストの戒めなのだ。(12節)しかも、その愛は、友のためにいのちを捨てる愛だ。(13節)キリストにとどまっている私たちが、イエス・キリストの「友」なのだ。(14節)現に「友」である私たちのために、イエス・キリストはいのちを捨ててくださった。主のご愛に感謝して、互いに愛し合う生活を実践できるように祈りつつ新しい一週間を出発しよう。

日本同盟基督教団 古河教会 牧師 小池宏明

〒306-0044 茨城県古河市新久田 478-10 E-mail:kogach@koganet.ne.jp

Tel: 0280-48-3088 Fax: 0280-48-6710 HP:www.koganet.ne.jp/~kogach/